

「輝きみつけ」

7月14日

今日の朝の話です。運動場での皆さんの健康チェックが終わった頃、校長先生は、体育館の前のテントの下にいました。そのとき、南舎の3階から、「教頭先生、おはようございます！」という大きな声が聞こえてきました。たぶん男の子の声だったと思います。その声が聞こえたので、テントの下から西の方を見てみると、ちょうど教頭先生が、職員室の前のアスファルトのところを歩いてみえました。3階のような遠いところから、「おはようございます！」と挨拶ができたのは、本当にすごいことだなと校長先生は思いました。

なぜかという、アスファルトのところを歩いている教頭先生は、その男の子が3階から見ていることを知らなかったと思います。だから、挨拶をしなくても教頭先生は寂しく思わなかったでしょうし、挨拶をしていなくても普通にすんでいったはずです。それに、3階から挨拶をするということは、普通の声の大きさでは下を歩いている教頭先生に声が届かないということなので、大きな声を出さないといけないわけです。

なのに、3階からきちんと挨拶をしてくれたというのは、本当にすごいことだなあと思いました。教頭先生もきっとうれしい気持ちになっていると思います。

実は、朝の校門でのみなさんの挨拶のことで、最近、校長先生は残念に感じていることがあります。それは、しっかり挨拶をしてくれる子ももちろんいるんだけど、3か月の長いお休みの前に比べると、挨拶をしない子が多くなったなあということです。校長先生が「おはようございます！」との目の前を通って行く子に挨拶をしても、挨拶を返してくれない子がいます。目の前の近いところにいるのに挨拶をしてくれない子のことを考えると、今朝、3階の遠いところから教頭先生に進んで挨拶をした子のが、よけいに立派な子だと思えました。